
夢幻陽炎～その魔眼は何を映すのか～

黒鉄乃太刀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢幻陽炎とその魔眼は何を映すのか

【Nコード】

N9821D

【作者名】

黒鉄乃太刀

【あらすじ】

万屋である神無月輝^{かなづきあきら}は、ある仕事で相棒を失ってしまう。そして、それと入れ替えるように、実験体の少女、明野雫^{あけのしずく}を保護することになった。しかし、それにより新たな事件に巻き込まれることとなる。

序章

ある街の裏路地の一角に二人の男がいた。

片方は、壁にもたれかかり、地べたに座り、もう片方は座っている男に向かい合う形で立っていた。

座っている男の見た目は、三十代前半位だろうか。体型は中肉中背。男の腹部辺りからは、恐らく助からないだろうと思える位の量の血が流れていた

対して、立っている男は二十歳前後くらいの青年だった。青年はやや背が高く細身ではあったが、その体は筋肉でしまっているのが見てとれた。

顔つきはそれなりに整っていたが、目の色が明らかに普通のそれと異なっていた。共に目の色は黒なのだが、普通の目の黒よりもずっと黒いのである。

まるで、全てを飲み込む漆黒の様に。

「わりい、先に往くわ、輝」

座っている男が、立っている男に向かって言った。

「ああ、あの世というやつがあったら、そこで酒でも飲んで待つてくれ」

「俺はあんたの仕事を引き継がないといけないから、往くのは遅れる」

輝と呼ばれた青年は、そう応えた。

座っている男はその応えに満足したかのよな表情を浮かべ、静かに息を引き取った。

輝は一瞬ではあったが、悲しそうな顔をした。

「さて、さつさと仕事の続きを終えて飲みに行くとしますか」

そう言いながら、青年は陽炎に包まれて炎に燃やされているような街中へ入って行った。

その夜、とある製薬会社の医療研究機関が壊滅した。

医療研究機関とは銘打ってあるものの、その実、公に知られていない裏組織『永遠ネバーナイトメア乃悪夢』が生体兵器を開発するために人体実験が行われていた場所であった。

そして、壊滅した夜に、ある一人の実験体も喪失したのであった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9821d/>

夢幻陽炎～その魔眼は何を映すのか～

2010年10月31日02時09分発行